

3人4脚

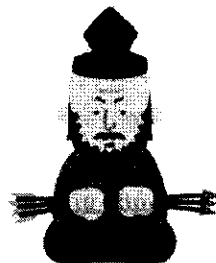


R 2.1/17(金) 第10号

二宮西中学校学校だより

発行者:和田 智司

「一年の計は元旦にあり」



2020年・・・東京オリンピックイヤーを迎えました。保護者・地域の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。新しい年の始まりにあたり、皆様の益々のご健康とご多幸を願っております。

さて、「一年の計は元旦にあり」という言葉を聞いたことがあると思いますが、戦国の名将毛利元就から由来するそうです。元就は「何事も始めが肝心だ」とも言ったそうです。・・・一年の計は元旦にあり、一月の計は朔（ついたち）にあり、一日の計は寅の刻（鶏鳴・早朝）にあり、一年の計は勤め（努力）にあるさらに、元就は上記の通り「一年の計は努力にあり」とも言っています。「千里の道も一歩から」と言う意味で、最初からぐずぐずしてはだめということだそうです。まとめると「はじめに目標や計画を掲げること、そして、その達成にむけ、絶ゆまぬ努力を続けることが大切である」となるでしょう。

3年生の皆さんは、進路を決定し15の春を迎えるための試練の時が待っています。誰もが乗り越えなければならない壁ですが、あと少しです。目標達成を目指し歯を食いしばって頑張りましょう。2年生の皆さんは、4月には3年生となり最上級生となります。これからの二宮西中を創るのは、まさしく今の2年生です。一歩も二歩も前進させるのは2年生次第なのです。期待しています。また、1年生の皆さんは4月には、新入生が入ってきて先輩になります。新年度には、3年生を支え1年生をリードする中堅学年の2年生です。その自覚を持って3学期に臨んでください。

二宮西中の生徒一人ひとりが、今年も明るく充実した学校生活が送れるように教職員一同、一丸となって努力してまいります。保護者、地域の皆様には、今まで同様「ホーム西中」に変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

幸先の良い新学期のスタートが切れました!!

～時間前に集合、自然に静かに、しっかり聞いて素晴らしい始業式でした～

1月8日（水）に3学期の始業式が行われました。9時が式の開始予定でしたが、時間前に全員が集合できました。さらに、自然に静かになりました。私の他に、杉渕先生、田中勇貴先生から話がありましたが、ほとんどの生徒がしっかりと話す方を見て話を真剣に聞いていました。・・・田中明夫先生からこの3点についてお褒めの言葉がありました。幸先の良い新学期のスタートを切ることができました。



【3学期始業式 学校長の話より・・・】

（前略）2020年・・・東京オリンピックイヤーを迎えました。14日間の冬休みが終わり、3学期の始業式を迎えました。今年の冬休みは、みなさんにとってどんな冬休みだったのでしょうか。・・・以前3学期を次のように表現した先生がいます。それは、「いちがつはいつてしまう月」、「にがつはにげてしまう月」、「さんがつはさってしまう月」。・・・それほど3学期は短く感じる学期です。

めっきり寒くなりました。この時期になると思い出すある詩があります。その詩にまつわる話を1つします。その詩は、以前、練習試合で、ある中学校に行ったときに、武道場のトイレに貼ってあったものです。その詩は、このような詩でした。・・・

はきものをそろえると 心もそろう 心がそろうと はきものがそろう
ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世の中の人の心もそろうでしょう

という詩です。



この詩の作者が気になったので、会場校の顧問の先生に聞いたところ、永平寺の開祖である道元禅師の「却下照顧」の教えを長野県篠ノ井町の円福寺の藤本 幸邦（こうほう）住職がわかりやすい詩として表現したものである。と教えていただきました。

言うまでもなく、その武道場のトイレのスリッパは、練習試合の最初から最後まで見事にそろっていました。「心がそろう」ということは、一人の人間として、また、ともに社会を生きる者として大切なことです。・・・

自然に挨拶をするように、自然に靴をそろえられる人になりたいものです。まずは自分自身が実行し、家族へ、友達へとつなげていきましょう。私自身、この詩を忘れることなく、生徒の皆さん、そして先生方と共に、教師として少しでも成長し、より良い二宮西中学校を創っていきたい。と思っています。

2学期の終業式で、2つの「江戸しぐさ」を紹介しましたが、その際、3学期の最初の道徳日より28個すべてを伝えたと皆さんと約束しました。今日の学級の時間で配付します。6ページ分ありますが、ぜひ読んでください。なお、この「江戸しぐさ」については、諸説あります。あくまでも先生が読んだ本をベースにしていますが、多くのものが「相手を思いやる心」を形にしたものです。

令和元年度の残りの3か月を、これまでにない素晴らしいものにできるようお互いに「ここをみがいて」いきましょう。

「聞く」から「聴く」への進化を感じました。

～講演から何かを学ぼうとする生徒の態度も素晴らしかったです。～



1月10日（金）に体育館にて、「新春スペシャル講演会 ～親子で学ぶいのち～」として、腰塚勇人先生による『命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～』の講演会が行われました。生徒会本部役員の池田彩乃さんによる司会進行、高野和さんによる講師紹介、講演会後の野崎はなさんの御礼の言葉・・・3人とも誠意をもってしっかりと自分の責務を果たしてくれました。大変素晴らしかったです。

一方、講演から何かを学ぼうとする生徒の態度も素晴らしかったです。「聞く」から「聴く」への進化を感じました。・・・スキー中に大転倒し首の骨の骨折という大ケガにより全身まひの体になってしまった腰塚先生。多くの方の応援と支援により奇跡の社会復帰できるまでに回復し、人生も人生観も大きく変わりました。腰塚先生が自らの体験を語ることが多かっただけに、自然と「聴く」ようになったと思いました。

私は、「ドリー夢メーカーとドリー夢キラー」、「人生の主人公は自分 いつからだって変わる」、「口福」、「真の知識は経験あるのみ」、「口・目・耳・心・手足・・・5つの誓い」が特に印象に残りました。お子さんはどんなことが印象に残ったのでしょうか。ご家庭で講演会の様子をお子さんから聞いてみてください。きっと良い話が聞けると思います。

なお、腰塚先生より全クラスに直筆の色紙をいただきました。1年生には『ドリー夢メーカーと今を生きる』2年生には、『命は笑顔を広げるために』、3年生には『You・Meをみんなで叶える』と書かれていました。・・・ありがとうございました。

先生を信じて欲しい
大人を信じて欲しい
自分の命の力を信じて欲しい

君たちの周りには
本気で君たちを想っている
ドリー夢メーカーがたくさんいます